

概要

藤沢市トンネル長寿命化修繕計画



1.トンネル長寿命化修繕計画の背景と目的

本編 p. 1~3

■背景

藤沢市が管理するトンネルは令和2年3月時点で計4本あります。建設後60年が経過した古いトンネルもあり、今後、更なる老朽化の進行により安全・安心な道路利用が困難となることが予想されます。

■目的

トンネルの機能を健全に維持していくために、『予防保全型』の管理に転換し、施設の延命化とLCCの縮減を図ることが望めます。本計画を策定し、投資費用の低減を図りつつ道路の安全性・信頼性を確保します。



2.管理トンネルの現状

本編 p. 4~6

■トンネル本体

本市では、平成25年度、平成27年度及び平成30年度に点検調査を行いました。代表的な変状は、トンネル覆工面の「ひび割れ」や「漏水」、「浮き・はく離」、また、覆工背面に「空洞」が確認されました。

■付属施設

各トンネルには、付属施設(非常用施設、照明施設、換気施設)が整備されており、建設後30年以上経過した中で施設の老朽化も進行しています。

【点検状況】



【トンネル本体に見られる代表的な変状状況】

【付属施設の状態】



3.計画の基本方針

本編 p. 7~8

■基本方針

本計画の基本方針は、道路利用者の安全・安心を確保する観点において施設の延命化と維持管理・更新コストの縮減を図る効率的な維持管理として位置づけます。

■維持管理水準

健全性区分が「Ⅱ：予防保全段階」に達したときに修繕を行い、「Ⅰ：健全」の状態を保持していきます。

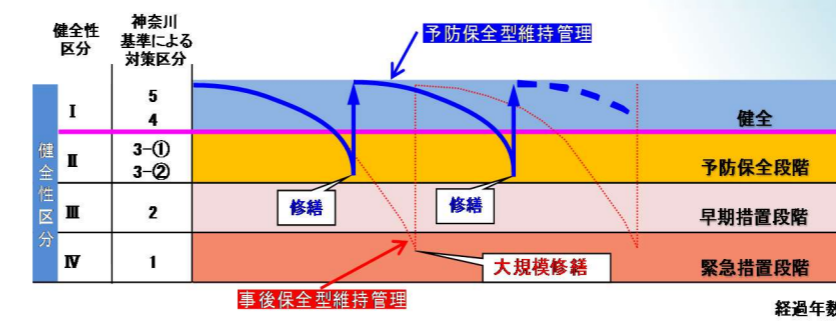


図3-1 維持管理区分の考え方

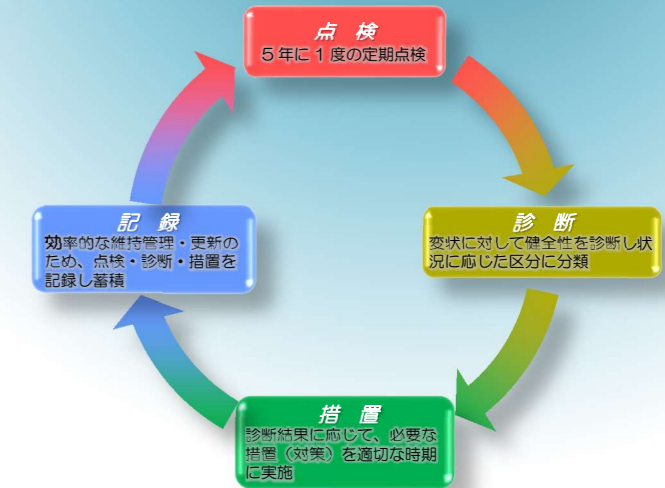


図3-2 メンテナンスサイクルの概念

4.トンネルの修繕計画

本編 p. 9~15

■対策の優先順位の考え方

トンネル本体では変状の健全性に応じて設定し、付属施設の更新時期はトンネルの路線重要度として役割、機能、利用状況、重要性などを考慮して設定します。

■短期維持管理計画

点検結果、付属施設の老朽化状況に応じて、早期に対策等が必要なものを優先的に修繕していきます。また5年に1回の定期点検も併せて実施していきます。

■中長期維持管理計画

維持管理計画は、予算の制約や事業の効率的な執行のため、適宜予算の平準化を行うことを基本とします。

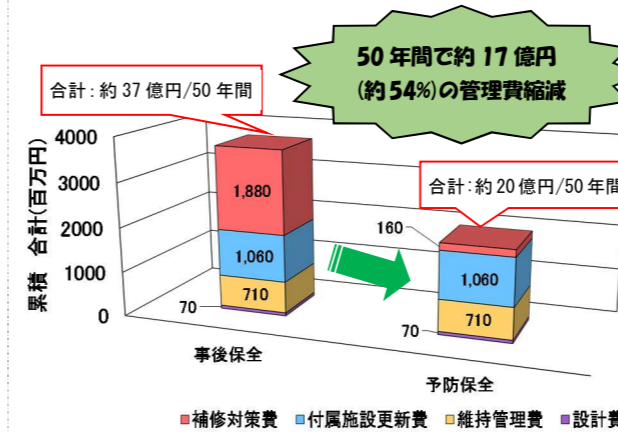


図3 今後50年のLCC分析結果(総額比較)

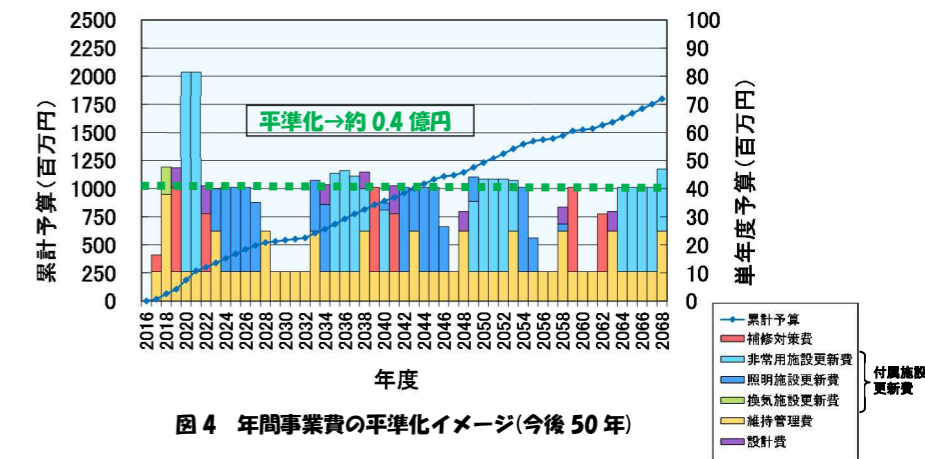


図4 年間事業費の平準化イメージ(今後50年)

5.事後評価・今後の取組

本編 p. 16

■事後評価

計画策定後10年程度を目安として、事業の見直し評価を行い、維持管理計画の計画修正や新規計画立案に役立てるものとします。

■今後の取組

維持管理における調査法や対策工は、今後の研究や技術開発に伴い、より経済的で効率の良い維持管理が可能になることが考えられます。本市では新しい技術を積極的に導入し、維持管理計画に反映させるよう取組むものとします。

